

14 (日)

偽善者のように

マタイによる福音書六章1〜18節

また、祈るときは、偽善者のようであってはならない。彼らは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈ることを好む。(5)

「偽善者」とは、「仮面をかぶって芝居をする者」という意味です。人は最も宗教的な行いにおいても、仮面をかぶるようにしていかにも信仰深そうに振る舞ってしまうことがあります。信仰者にとって大切なことは、人にどう見られるかではありません。地上における評価は、天国では通用しないからです。大切なことは、私たちの心の底まで見通しておられる神の御目にどう見られるかです。素顔の生活において、神の前に真実に生きることが求められています。神を信じていない人びとは、他の人の目にどのように映るかを気にし、人の目を偽ろうとします。けれども私たちはそうであってはなりません。この世で生活しながらも、仮面をかぶって生きるのではなく、不器用であっても神の御前で真実に生きようではありませんか。主は私たちの偽らない姿をちゃんと見ていてくださるのです。